

プロジェクトへの関心が増大 参加希望や空き家相談も

ヨシダリノベーションプロジェクトの活動を行っている地域「吉田いちび通り」は、JR 吉田駅から徒歩5分ほどの場所に位置しています。この通り沿いには「吉田旭町一丁目商店街」と「^{かんまち}上町商店街」が続きます。

私は、6年前に新潟市から吉田地区にUターンをしてきました。建築設計士の職業柄、古い建物に興味があり、「商店街で何かをしたい」という思いを抱いていました。2019年に、「ヨシダリノベーションプロジェクト」をスタートさせ、吉田いちび通りの空き店舗をリノベーションし、地域のコミュニティやクリエイターが交流できるカフェ「Tokoko^{トココ}」を開業しました。また、月1回程度の定期露店市に合わせたミニマルシェや、年3回程度の「トコマルシェ」というイベントを開催しています。このイベントでは、空き店舗や空き地を活用した複数の出店があり、朝から多くの人で商店街にぎわう人気のイベントとなっています。空き店舗

を活用し、不動産オーナーにも収入の機会が生まれたことで、イベント時などにおいて空き店舗利用のハードルが下がるなど、有益な取り組みとなってきました。

このプロジェクトに対する地域の関心は着実に高まりつつあり、地域外からの空き家活用やマルシェ運営に関する相談も増えています。特にSNSを通じて、プロジェクトに参加したいという声が寄せられ、地域の活性化に対する関心が広がっていると実感しています。

今後は吉田地区での新たなプロジェクトとして、吉田旭町一丁目にある旧湧井^{わい}医院の建物の活用方法について、若者や地域の皆さんにアイデアを貰いながら、検討していく予定です。



旧湧井医院の内観▲
旧湧井医院の外観▶



「トコマルシェ」の様子▲

interview

吉田地区
Yoshida

はすぬま ともひろ
蓮沼 知大^{つなぬま}さん

新潟市内の会社に勤めたのち、燕市へUターン。ヨシダリノベーションプロジェクトの代表であり、空き店舗をリノベーションして、人と町を繋げるカフェ「Tokoko」を中心に活動中。



▲蓮沼さんが運営する Tokoko の内観



※まちトープとは？
燕地区の宮町にオープンした、カフェやシェアラウンジ、図書館などを備えた複合施設です。「まちで過ごす場所」と「まちを使う機会」の提供という機能を担っています。

まちトープの外観（上段）
▼まちトープの内観（下段）



私がメンバーの一員として活動している、「クロスロード宮町」まちなか開発プロジェクトは、国の交付金を活用した、燕市中心市街地再生モデル事業の一環として、宮町のにぎわいを創出する取り組みです。このプロジェクトでは、空き地や空き店舗を利用したイベントの企画、ベンチの改修など、商店街の人たちと協力してさまざまな取り組みを行っています。主な目的は、「人が来る流れをつくる」「ファンをつくる」「一緒にやってくれる人を見つける」の3つです。

みんなが笑顔になるまちへ 自分事として関わる環境に

「クロスロード宮町」では、老朽化した空き家の解体、空き店舗・空き地の活用を進めながら、マルシェなどのソフト事業を並行して実施しています。燕地区の宮町商店街で未来を担う若者が中心となり、新しい価値を創造するまちづくりを行っています。

interview

かえりやま よしふみ
歸山 芳文^{かえりやま}さん

燕地区
Tsubame

フリーランスのカメラマンとして活動するかたわら、カフェ併設スタジオを運営。「クロスロード宮町-まちなか開発プロジェクト-」の一員として、燕地区商店街でのマルシェイベント開催など、ソフト事業を中心に活動中。



という新しい複合施設も完成し、宮町に新たなエネルギーや人の交流の場が生まれました。施設を活用し、活動・交流人口の創出をテーマにした事業を行うなど、さまざまな取り組みを行っています。

これらの取り組みを通じて感じたことは、地域の人々との協力体制の確立が重要ということです。そのために今

後も、地域の声に耳を傾けながら、より多くの人たちが参加できる取り組みを進め、地域課題の解決に対し、誰かがやってくれるのではなく「自分事」として関わることでできる環境を整えていきます。

住んでいる人たちが訪れる人たち全員が笑顔になるような取り組みを継続して実施していく予定です。



▲宮町地区のイベントの様子。若者がたくさん来場しています。



新施設「まちトープ」で開催した多文化共生のイベント▶